



いては、マイナス0.5%ということ、1千538万8千円です。平成24年度予算編成時におきましては、マイナス1%、2千805万7千円です。

Q 経常経費へのシーリングは、限界があるとは思いますが、どの程度までかけ続けるのか。

A 総務部長 これから先もずっとシーリングをかけていくことは、なかなか難しいと考えています。各施策ごとの枠を多少見直しながら、考

えていく必要があると考えています。

Q 市長は中期財政計画と平成26年度当初予算案に、18億6千400万円のずれが生じていることを、どのように思っているのか。

A 市長 200億円を編成が続くこと自体、なぜかという疑問を持ちながら、ある意味では危機感を感じているところで、もつとしっかりと予算

規模を身の丈に合ったものに、できるだけ早期に縮めていくことが必要だろうと理解をしています。

Q 今の中期財政計画は平成23年度から平成27年度までなので、そろそろ新しい中期財政計画を作成していると思うが、大幅な変動がある場合には、早急な見直しを図っていくべきだと思っ

A 総務部長 本来であれば、大きな額の変更改があれば、これをローリングという形で見直しをかけるものと基本的に考えています。合併特例が終了する平成32年度以降を見据えた、中期財政計画を作成する予定です。その中でしっかりと財政の見直しを立てていきたいと考えています。

Q ファシリテイマネジメントについて、基本方針を定めるということだったが、その状況と導入後の成果はどうか。

今後の取り組みとしては、基本方針に基づき、徹底したコスト意識への改革と経営感覚を持った効率的な資産運営、さらには、最小の経費で最大の効果を発揮する仕組み



A 総務部長 平成24年4月に資産管理経営室を設置し、ファシリテイマネジメントへの取り組みをスタートさせ、2年が過ぎようとしています。これまでファシリテイマネジメントを実行するための環境整備として、基礎データの収集、基礎データの整理に取り組むほか、基本的な考え方となります基本方針策定に向けた作業を行って

を構築していくこととされています。

一方で、不要となった施設の解体撤去、利用見込みのない土地の処分などについて、少しずつではありますがありますが、積極的に取り組んでいるところで

Q 市の基金運用について、現在の状況はどうか。

A 財政課長 基金の運用方針に基づき、安全性の高い債権で運用しており、主に国債よりも高い利回りが期待できる地方債を購入しています。

現在の状況は、平成26年1月現在で、財政調整基金、減債基金、地域振興基金、庁舎建設基金、

福祉基金を債権運用しておりまして、合計29本、購入金額で91億9千79万5千円となっています。この29本の購入金額に対する、債券利回りの見込みですけれども、平均で約0.55%となり、平成25年度の債権運用益は5千160万円となる見込みです。

【シーリングとは】

予算編成に先立って示される予算方針で、主に上限を設定すること。支出の無制限な増大を抑制するほか、重点的に投資する項目を示す意義もある。

一般質問の内容は、各議員から提出された原稿をそのまま掲載しました。

※詳しくは、図書館又はインターネットで会議録が検索できます。(発行は後日)